

新年のご挨拶



社会医療法人同仁会 理事長 齊藤 和則

あけましておめでとうございます。昨年10月、池田信明前理事長からバトンを受け新理事長になりました。耳原総合病院は新病院の基礎工事がほぼ終了し、月に一階ずつ本体が積み上がって行く予定です。この建設を機に法人全事業所で職員が医療情勢を学び、自身の成長と接遇教育を通して、利用する方がこれまで以上に心地よいとお感じいただける施設にしていきます。

消費税増税、介護の一部保険外し、薬剤のネット販売、TPP参入、春の診療報酬改定などによる医療、介護、福祉の後退、営利化が心配です。昨年の堺市長選挙の結果、子どもの医療費補助、国民健康保険

の値下げなどが継続されることになり少し胸をなでおろしていますが、国の低医療費政策、自助、互助、共助を強調する厚労省の2025年地域包括ケア計画では高齢社会に対処できるかどうか。齢を重ねても地域で若い世代と共に活動できるように近隣の先生方、医療機関と協力して健康増進に力をいれたいと思っています。

当法人は1950年耳原実費診療所から始まり、無差別平等の医療と介護を非営利・協同ですすめてきました。前倒産、セラチア菌院内感染の教訓から自己流に陥らないよう医療介護実践、学術、経営などについて全日本民主医療機関連合会・大阪民医連といっしょに活動しています。今後とも地域の皆様、共同組織会員の方々と健康で平和に暮らせる地域づくりをまいります。よろしくご支援、ご指導お願いいたします。



事務長 近藤 聡

新年あけましておめでとうございます。昨年も当院へのご支援、ご協力ありがとうございました。

地域に根差した医療機関として活動を進めていく拠点である新病院の建設が進んでいます。まだワークレーンだけがそびえている光景ですが、2014年中には、ほぼ完成に近づきます。新しい病院では「かかってよかった」「働いてよかった」「あってよかった」を地域の医療機関のみなさん、住民のみなさんと、職員とともに実感できるような運営、取り組みを進めていきたいと思っています。

今年は診療報酬の改定があります。厚生労働省は2025年を見据えた改革を目指しており、その方向は改定にも反映することでしょう。私たちは理念である「安全・安心・信頼の医療」「無差別・平等の医療」「患者負担の少ない医療」「地域とともに歩む専門職の育成」をめざし進めていくためにも国や厚生労働省の政策、動きにもしっかり関心を持ち、医療活動を進めていきたいと思っております。今年もよろしくお願いいたします。



副病院長 救急総合診療科 医師 田端 志郎

新年明けましておめでとうございます。昨年は当院へのご協力、ご支援を頂きまして誠にありがとうございました。本年もよろしくお願い致します。

私は毎日、集中治療室で仕事をしています。昨今の社会情勢を反映して、金銭的な困難さや支える家族が不在のために医療機関受診が遅くなり、重症な状態となって集中治療室に入ってこられる患者さんをよく経験するようになりました。当院は無料低額診療を行っておりますし、ソーシャルワーカーも数多く配置している病院です。社会的困難さを抱えた重症患者さんにも、金銭的な心配なく集中治療を受けて頂き、種々の社会保障制度をご利用できるように丁寧な対応ができていますと自負しています。ですが、社会的に困難な患者さんがどんどん生み出されながら、医療機関として頑張っ受け入れてゆくだけで精いっぱいという状況をとても悔しく思います。「予防は治療に勝る」と言われます。容易に首を切られるような不安定な雇用、社会的セーフティネットの貧弱さ、生活保護取得の高いハードル、地域の中での人々の繋がり弱さなど、疾病を生み出す種々の社会的要因を、私たちは地域の方々を力と力を合わせながら何とか改善してゆきたいと思っております。これからも、受診された重症患者さんをきちんと質の高い集中治療で救命できるように努力するとともに、健康的な街づくりのために役割を果たしてまいります。



社会医療法人同仁会 看護部長 森岡 徳子

新年あけまして、おめでとうございます。

みなさんご存知ですか？気管内挿管などこれまで医師が行ってきた41種類の医行為を「特定行為」に選定し、看護師も実施できるようにしようとしていることを…。安全対策も示されていないまま、法的責任は指示を出した医師と実施した看護師にあるとしています。今年の通常国会で医療法等一括改正案に盛り込まれ提出される見通しです。

超高齢化社会を迎える中で患者様に寄り添い、患者様の「病気や障害を回復し健康を取り戻したい」という願いに応える実践ができるよう医師・看護師などの増員こそが求められているのではないのでしょうか。私たちは、改めて「看護の役割は何か」を問い直し、住み慣れた街で生きることを支える存在でありたいと思っています。このような制度に反対する運動にぜひご協力ください。地域の皆様とご一緒に、安心して住み続けられる街づくりをすすめていくために、安全・安心の医療をめざして、今年もがんばりたいと思います。



副病院長 泌尿器科 医師 田原 秀男

新年明けまして、おめでとうございます。

平成25年7月から新病院の建設が始まりました。現在は周囲を約3mほどの柵でおおわれており、中の状況が判りません。毎朝出勤の度に、いつ鉄骨がこの柵の上に姿を現すのかと心待ちにしていますが、この原稿を書いている12月初旬にはまだ全く姿が見えません。普通の家であれば、もうすでに立ち上がっているところでしょうか。14階建ての大きな建物の故、基礎工事をしっかりとする必要があるのでと自問自答しています。

数年前より耳原総合病院は、これまでの医療で良しとせず大きく変わろうと考え行動を起こしてきました。その結果一例ではありますが、平均在院日数が減り、ベッドの回転率が良くなりました。救急車の不応需率が減り、たくさん患者様を受け入れることができるようになってきました。認定医師、認定看護師が増え、より専門的な医療が提供できるようになってきました。こういった事柄は、耳原総合病院で働く職員全体の意識を改革するという基礎工事の結果が表れてきたことによるものかもしれません。

昨今の医療技術の進歩には目を見張るものがあります。大病院にはとても太刀打ちできませんが、時代が求めているもの、地域が必要としているものを敏感に感じ取り、当院独自の特色を持った医療の提供を心がけたいと考えています。



副病院長 総合内科 医師 松田 圭市

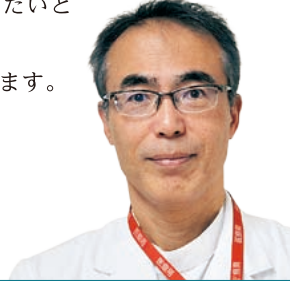
新年あけましておめでとうございます。昨年はいろいろお世話になりました。ありがとうございました。

新病院建築が始まり、大きなクレーンが設置され土台が除々に構築されており期待が膨らんでいます。

昨年より副病院長を拝命し内科の医療と医師研修を主に担当しております。外来ではたくさん患者様を紹介していただきましてありがとうございました。まだまだ十分とはいえませんが、患者様に満足していただいて先生方の外来に引き継げますように努力していく所存です。

また研修病院として毎年たくさん研修医を迎えています。日常的にカンファレンス等で研修医を育てることを通して医療の質の向上、どこにいても通用する医療を提供するよう引き続きがんばっていきたく思っております。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。



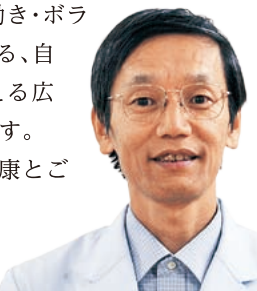
副病院長 小児科 医師 田中 充

新年明けましておめでとうございます。

小児科と健診・組織(友の会)担当の田中充です。

先生方のご協力をいただき昨年から新病院の建設が始まりました。これからは先生方に利用して頂きやすい病院になるために、ハード面だけでなくソフト面の新建設を奥村病院長と供に行います。予約がしやすく受診していただきやすい病院になるよう努めます。小児科は単独病棟を持ち、保育士・心理士も病棟に配置しています。発達の気になる子どもから鼠径ヘルニア手術の管理まで幅広く活動しております。ぽっちゃり入院(肥満児対象)・スキンケア入院(軟膏指導)・低身長ホルモン検査等を行ってきましたが、今後は外傷・熱傷の分野にもチャレンジしたいと考えております。また小児病棟では24時間介護スタッフが常駐する部屋を作りましたので、安心して患児一人だけの入院も可能になっております。是非ともご利用ください。また、新病院には自由に使える広場・レストランも建設しコミュニティ機能を持たせます。患者さま以外も来なくなる・人が集まる施設を目指します。生き生きと働き・ボランティアができ・集まって勉強できる、自分の持っているものを皆で分けあえる広場になれたらいいな、と考えております。

それでは先生方の今年一年のご健康とご活躍をお祈りいたします。



副病院長 病理科 医師 木野 茂生

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中はひとかたならぬご厚情を賜り、あつく御礼申し上げます。

2013年は尖閣諸島、竹島問題などによるアジア近隣諸国との関係悪化に始まり、与党の圧倒的な数的優位にものを言わせた特定秘密保護法の強行採決の国会運営まで、いろいろな意味において先の見えない時代に突入して年が暮れました。一方、私たちの耳原総合病院にとっては、新病院建設の着工によって、新病院での医療展開がますます現実味を持ってきており、職員は新病院の開設に期待を膨らませています。2000年のセラチア院内感染事故以来13年が経過する中で、皆様方の並々ならぬ御支援により今日を迎えさせて頂いておりますが、来年度から始まる消費税増税やTPP導入による国民皆保険の崩壊など社会の流れを鑑みましても、新病院を担う次の世代に向けて、新たな医療展開を構築し、安定した病院運営を確立して行く責務に身が引き締まる思いです。

新病院の建設に当たり、院内の倫理委員会の責任者である私の役目は、一人でも多くの職員が治療医学的な見地からだけでなく、ソリッドファクト(健康の社会的決定要因)を含む病気を生み出す背景など医療倫理の側面から患者様をとらえることができるようすることです。そのためには、職員の学習、教育に力を入れ、職員ひとりひとりが医療人を志した初心に立ち返り、当院のレーゾンデートル(存在理由)について考える機会を多数作っていくことに鋭意努力してまいります所存でございます。何卒、ご理解、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



総看護師長 北口 律子

新年あけましておめでとうございます。昨年は機能評価の更新受審があり、職員一同で取り組みました。私たちの医療活動が何を根拠に行われているのか、何を大事にしているのか、日々実践を振り返り評価し、改善の機会とすることが出来たと思います。また、昨年3月末には、厚生労働省「チーム医療推進会議」において、「特定行為に係る看護師の研修制度(案)」についての報告書が取りまとめられました。保助看法に「特定行為」を定め、(1)医師の指示の下、プロトコールに基づいて行う場合には厚生労働大臣の「指定研修」を義務付け、研修した旨を看護師籍に登録する(2)それ以外(具体的指示で行う)の場合も研修(院内研修等)の実施を努力義務化する—というもので、看護師の役割が拡大し看護の質が向上するとしています。役割拡大が果たして看護なのでしょうか。看護師の倫理綱領で看護とは「生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的としている」としています。

私達は、国民が安心して子供を産み、育てられ、そして老後も安心して暮らせる社会を作る事が最も大事だと思っています。医療に携わる者として、私達が今何をすべきなのか？何が出来るのか？新年を迎え、新たな気持ちで当院の看護部の理念「患者の願いから出発し、患者の立場に立って、患者とともに看護をすすめます」を心に留め、知識・技術・判断力・やさしさを兼ね備えた看護専門職として信頼され、皆様に喜んでいただける看護サービスを提供できるよう努力し、チーム医療の中で求められる看護の役割を果たして行きたいと思っております。



新病院建設 ニュース

基礎工事も終盤に。ゆるぎやらグッズ好評です！

現在、基礎部分の工事が終わろうとしています。今後、鉄骨部分が地上部分に立ち上がってきます。周りからも建設状態が確認できるようになってきます。新病院の壁の色はアスカラー(茶色系)と決まっていたのですが、実際のタイルを見ていただき、アンケート調査を行い、ウォーム系の茶系に決定させていただきました。



みみはら ゆるぎやら グッズ

「みみはら ゆるぎやら」を利用したグッズ(Tシャツ・マグカップ・クリアファイル・ハンドタオル・マグネット)を作成しました。販売もしております。

今年も、ご利用していただきやすい病院をめざし新病院建設に向けて頑張っていきたいと考えています。

新病院建設 & みみはら ゆるぎやら

耳原総合病院開設当時



新病院建設中

